

「二」 次の四問(イ・ロ・ハ・ニ)から二問を選択し、また設問に答えなさい。
解答は解答用紙に選択した問題番号を明記しなさい。漢字は常用漢字で表記してもよい。

イ 次の文を読んで、下記の問1、問2に答えなさい。

※この問題は、著作権の関係により掲載できません。

問1 文中の——部分を、現代日本語に翻訳しなさい。

問2 魏晉時代以前(魏晉時代を含む)の貨幣制度史について三〇〇字以内で説明しなさい。

□ 次の文を読んで、下記の間1、問2に答えなさい。

南冠録引^二

予以始生之七月，出繼叔氏隴城府君。迨大安庚午，府君卒官，扶護還鄉里，時予年二十有一矣。元氏之老人、大父，凋喪殆盡。問之先世之事，諸叔皆晚生，止能道其梗概。予亦以家謀具存^三，碑表相望，他日論次之，蓋未晚也。因循二三年，中原受兵，避寇陽曲，秀容之間，歲無寧居。貞祐丙子，南渡河，家所有物，經亂而盡。舊所傳譜牒，乃于河南諸房得之，故宋以後事為詳，而宋前事皆不得而考也。益之兄嘗命予修《千秋錄》，雖略具次第，他所欲記者尚多而未暇也。歲甲午，羈管聊城，益之兄邈在襄漢，遂有彼疆此界之限。侄搏俘繫之平陽，存亡未可知。伯男子叔儀、侄孫伯安皆尚幼，未可告語。予年已四十有五，殘息奄奄，朝夕待盡。使一日顛仆于道路，則世豈復知有河南元氏哉？維祖考承三公餘烈^三，賢雋輩出，文章行業，皆可稱述。不幸而與皂隸之室混為一區，泯泯默默，無所發見，可不悲哀邪！乃手寫《千秋錄》一篇，付女嚴，以備遺忘，又自為講說之。嗚呼！前世功名之士，人有愛慕之者，必問其形質顏貌、言語動作之狀，史家亦往往為記之。在他人且然，吾先人形

質顏貌^四、言語動作，乃不欲知之，豈人之情也哉？故以先世雜事附焉。予自四歲讀書，八歲學作詩，作詩今四十年矣。十八，先府君教之民政。從仕十年，出死以為民。自少日，有志于世，雅以氣節自許，不甘落人後。四十五年之間，與世合者不能一二數。得名為多，而謗亦不少。舉天下四方，知己之友，唯吾益之兄一人。人生一世間，業已不為世所知，又將不為吾子孫所知，何負于天地鬼神而至於然邪^五？故以行年雜事附焉。先祖銅山府君，正隆二年賜出身。訖正大之末，吾家食先朝祿七十餘年矣^六。京城之圍，予為東曹都事。知舟師將有東狩之役，言于諸相，請小字書國史一本，隨車駕所在，以一馬負之。時相雖以為然，而不及行也。崔子之變，歷朝《實錄》，皆滿城帥所取。百年以來，明君賢相可傳後世之事甚多，不三二十年，則世人不復知之矣！予所不知者亡可奈何，其所知者，忍棄之而不記邪^七？故以先朝雜事附焉。合而一之，名曰《南冠錄》。叔儀、伯安而下，乃至傳數十世，當家置一通。有不解者，就他人訓釋之。違吾此言，非元氏之孫。

問1 文中の——部分を、現代日本語に訳しなさい。

問2 この文章を書いた人物について、時代背景とともに知ることを記しなさい。

ハ 次の史料の「我太祖」以下の部分を現代日本語に訳しなさい。翻訳に際しては、「太祖」「臣」各々の固有名詞を明記し、史料全体の文脈を踏まえて、歴史背景を可能な限り補足しなさい。

新羅之初。衣服之制。不可考色。至第二十三葉法興王。始定六部人服色尊卑之制。猶是夷俗。至眞德在位二年。金春秋入唐。請襲唐儀。太宗皇帝詔可之。兼賜衣帶。遂還來施行。以夷易華。文武王在位四年。又革婦人之服。自此已後。衣冠同於中國。我太祖受命。凡國家法度。多因羅舊。則至今朝廷士女之衣裳。蓋亦春秋請來之遺制歟。臣三奉使上國。一行衣冠。與宋人無異。嘗入朝。尙早立紫宸殿門。一閤門員來問。何者是高麗人使。應曰。我是。則笑而去。又宋使臣劉達。吳拭來聘。在館宴次。見鄉粧倡女。召來上階。指闊袖衣。色絲帶大裙。嘆曰。此皆三代之服。不擬尙行。於此知。今之婦人禮服。蓋亦唐之舊歟。新羅年代綿遠。文史缺落。其制不可備數。但粗記其可見云爾。

二 つぎの問題A、または問題Bのいずれかに答えなさい。

設問A

(1) つぎの史料の全文を現代日本語訳しなさい

(2) 傍線部の「公中佐領」とはどのようなものか、史料の記述をも参考にしつつ説明しなさい。

佐領秩四品、爲管轄旗籍人丁親切之官、凡戸婚、田産、譜系、俸餉之考稽、咸有所責、如漢人之於牧令焉。舊制每佐領管三百人。其佐領之名目有四：若勳舊佐領、皆國初各部落君長、率屬來歸、授爲佐領、仍統其衆、爰及苗裔、世襲罔替；若世管佐領、皆國初攜挈族黨、倡義歸誠、或功在旂常、錫以戸口、爰立佐領、奕葉相承、世亦弗替；若互管佐領、因其本族戸少丁稀、合編兩姓爲一佐領、遞世互襲、亦在勿替之列；若公中佐領、或世襲之家已絶、改爲公中、或人戸滋多、另編公中、或合庶姓之人、編爲公中、皆以本旗不兼部務之世爵及二品以下、五品以上文武官員内簡選兼任。

設問 B

- (1) つぎの文章の全文を日本語訳しなさい。
(2) この文章で述べられている事件について、どのような解決がはかられたか、また、その後の清朝の政策・対外関係にどのような影響を及ぼしたかを説明しなさい。

There were some informal organizational changes of importance to the new navy, however, and these may be observed in the Sino-Japanese tension in 1874 over the Liuchiu Islands. The trouble over the Liuchiu Islands began in 1871. In that year some shipwrecked Liuchiu sailors were killed by aborigines on Formosa. The Japanese government, using the argument that the Liuchiu islands acknowledged Japanese suzerainty (actually, the king of the islands sent tribute to both China and Japan), and thence that the murdered sailors were Japanese subjects, demanded redress from China. The matter dragged on for some years. Finally, in 1874, faced with vacillation in Peking (and faced also with the adventurous schemes of dispossessed samurai in Japan, who were reacting angrily to the strains of Japan's own modernization program), the Japanese government sent a naval expedition to Formosa to chastise the murderers.

※WEB掲載に際し、以下のとおり出典を追記しております。
CHINA'S STRUGGLE FOR NAVAL DEVELOPMENT, 1839-1895
by John L. Rawlinson, Cambridge, Mass.: Harvard University Press,
Copyright © 1967 by the President and
Fellows of Harvard College. Used by permission. All rights reserved.

【二】 次の語句の中から三つを選び、それぞれについて説明しなさい。

繙訳科挙	避暑山莊	エルデネ・ゾー	間島協約
塩鉄専売制	九品官人法	敖倉	帝室財政
完顔希尹	婆速路	三朝北盟会編	趙秉文
祢氏一族	真興王巡狩管境碑	善徳王	三国遺事

受験番号	
氏名	カナ
漢字	

この欄以外に受験番号、氏名を記入しないこと。

漢字氏名がない場合は、ひらがなで記入すること。

——ここから記入すること——

東洋史學

点 綫

(裏へ続く)

——これより先の余白には絶対に記入しないこと——

(裏へ続く)

——ここから記入する——

(裏へ続く)

——これより先の余白には絶対に記入しないこと——

(裏へ続く)

——ここから記入すること——

(裏へ続く)

——これより先の余白には絶対に記入しないこと——